

スーパーマーケット販売統計調査資料

2024年10月実績 速報版

9月実績 確報版

(2024年11月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカリー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2024年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2024年10月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	105,284,288	100.0%	102.1%	100.7%
食品合計	96,245,425	91.4%	102.5%	101.0%
生鮮3部門合計	36,027,085	34.2%	101.7%	100.2%
青果	15,085,926	14.3%	102.6%	101.1%
水産	8,648,796	8.2%	101.2%	99.6%
畜産	12,292,363	11.7%	101.1%	99.5%
惣菜	11,779,258	11.2%	104.7%	103.1%
日配	21,525,910	20.4%	100.9%	99.7%
一般食品	26,913,173	25.6%	104.0%	102.5%
非食品	6,511,988	6.2%	96.3%	96.3%
その他	2,526,916	2.4%	103.9%	102.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,904,540	43	100.1%	98.9%
関東地方	39,197,414	73	103.2%	101.5%
中部地方	12,845,793	53	101.8%	100.8%
近畿地方	23,377,062	44	102.2%	100.9%
中国・四国地方	10,731,102	34	102.4%	100.8%
九州・沖縄地方	5,228,376	23	100.3%	100.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	541,507	46	97.5%	97.5%
4~10店舗	4,484,801	83	98.8%	98.1%
11~25店舗	8,862,938	50	101.5%	100.5%
26~50店舗	18,041,248	45	100.4%	99.7%
51店舗以上	73,353,794	46	102.8%	101.2%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	103,488,779
総店舗数 (店舗)	8,389	店舗平均月商 (万円)	12,550
総売場面積 (㎡)	13,987,460	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2024年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2024年9月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	103,397,524	100.0%	103.1%	102.0%
食品合計	95,326,135	92.2%	103.3%	102.1%
生鮮3部門合計	35,668,166	34.5%	103.7%	102.4%
青果	15,415,966	14.9%	104.7%	103.6%
水産	8,556,169	8.3%	103.0%	101.7%
畜産	11,696,031	11.3%	102.8%	101.4%
惣菜	11,771,541	11.4%	104.2%	102.8%
日配	21,326,700	20.6%	101.0%	99.9%
一般食品	26,559,729	25.7%	104.4%	103.0%
非食品	5,800,415	5.6%	101.5%	101.1%
その他	2,271,024	2.2%	101.1%	101.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,741,889	43	101.8%	100.8%
関東地方	38,339,749	73	103.7%	102.4%
中部地方	12,662,531	53	102.7%	102.0%
近畿地方	22,988,023	44	102.9%	101.5%
中国・四国地方	10,522,372	34	103.8%	102.5%
九州・沖縄地方	5,142,961	23	103.2%	103.0%

保有店舗数別集計

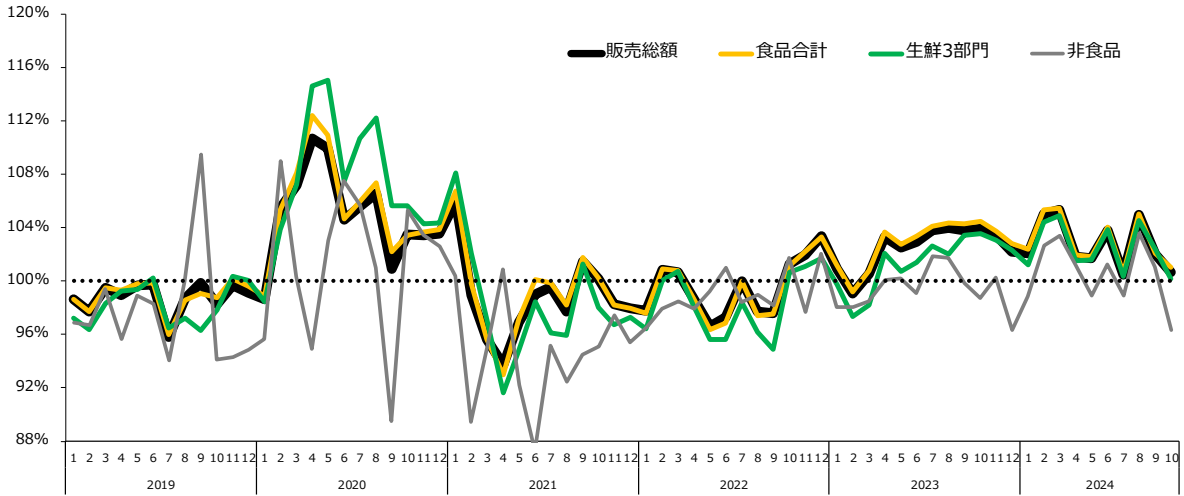
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	527,698	46	98.8%	100.1%
4~10店舗	4,458,224	83	101.4%	100.8%
11~25店舗	8,923,150	51	101.5%	102.4%
26~50店舗	17,586,678	44	102.0%	101.1%
51店舗以上	71,901,774	46	103.8%	102.3%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	101,649,888	
総店舗数 (店舗)	8,383	店舗平均月商 (万円)	12,334	
総売場面積 (㎡)	13,978,207	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.4	

※売上高は税抜金額

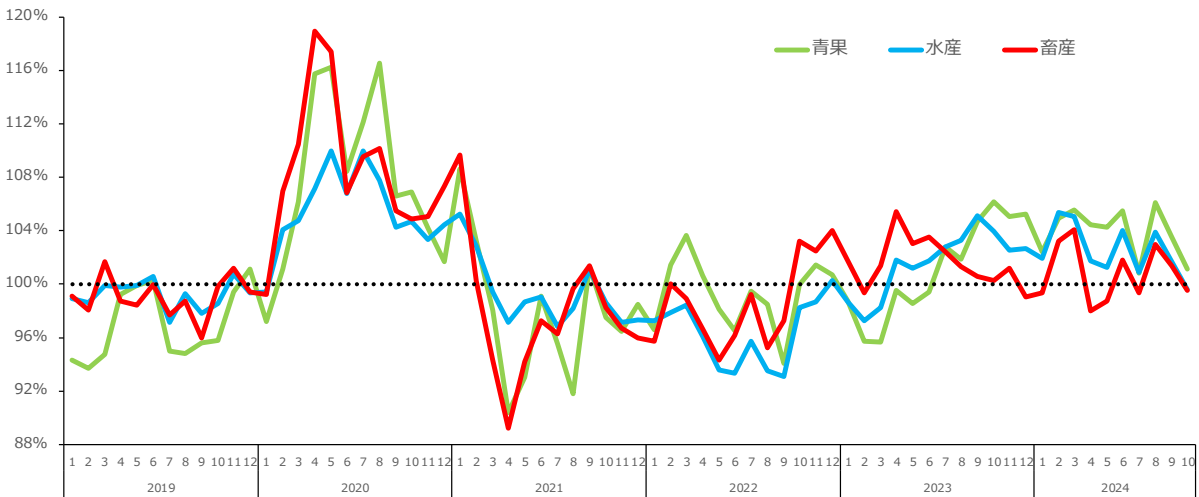
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

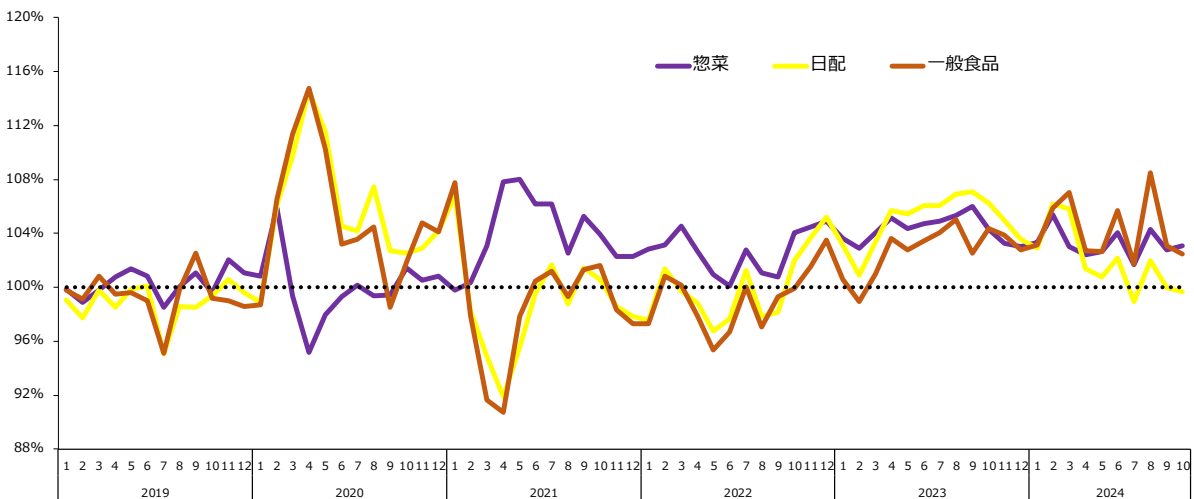
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2024年10月実績は速報版

2024年10月 エリア別気候状況

10月の気温：全国的にかなり高かった

上旬：北日本ではかなり高かった。東日本、西日本では高かった。

中旬：北日本、東日本、西日本ではかなり高かった。

下旬：北日本、東日本、西日本ではかなり高かった。

2023年10月との比較：東・西日本で前年に比べかなり気温が高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2024年10月 (今年)			2023年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.6	1.7	2.0	0.7	1.3	0.8	0.9	0.4	1.2
太平洋側	1.9	1.9	2.4	0.9	1.4	0.8	1.0	0.5	1.6
東日本 日本海側	2.2	2.1	2.8	-0.1	0.2	-0.1	2.3	1.9	2.9
太平洋側	2.5	2.3	3.2	-0.2	0.3	0.1	2.7	2.0	3.1
西日本 日本海側	2.8	2.5	3.6	0.0	0.3	-0.4	2.8	2.2	4.0
太平洋側	3.1	2.7	4.0	-0.2	-0.1	-0.6	3.3	2.8	4.6

平年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

前年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

10月の日照時間：北日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側でかなり少なかった

上旬：北日本太平洋側、西日本日本海側ではかなり少なかった。北日本日本海側、東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本太平洋側では少なかった。

中旬：北日本日本海側、北日本太平洋側、東日本日本海側、東日本太平洋側では多かった。西日本日本海側では少なかった。

下旬：北日本日本海側、北日本太平洋側では多かった。東日本太平洋側、西日本太平洋側ではかなり少なかった。西日本日本海側では少なかった。

2023年10月との比較：下旬にかけて東日本太平洋側と西日本で前年に比べかなり少ない日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2024年10月 (今年)			2023年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	89	130	119	96	121	126	-7	9	-7
太平洋側	70	117	113	106	131	127	-36	-14	-14
東日本 日本海側	75	118	89	82	141	122	-7	-23	-33
太平洋側	79	122	57	97	161	156	-18	-39	-99
西日本 日本海側	73	94	58	87	126	157	-14	-32	-99
太平洋側	90	102	46	85	125	162	5	-23	-116

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

10月の降水量：東・西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった

上旬：東日本日本海側、西日本太平洋側ではかなり多かった。東日本太平洋側、西日本日本海側では多かった。

中旬：北日本日本海側、北日本太平洋側、西日本日本海側では多かった。東日本太平洋側では少なかった。

下旬：東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

2023年10月との比較：上旬は東日本と西日本、中旬は西日本、下旬は北・東日本太平洋側と西日本で前年に比べかなり多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2024年10月 (今年)			2023年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	104	121	94	169	128	75	-65	-7	19
太平洋側	95	90	103	102	75	50	-7	15	53
東日本 日本海側	213	67	108	128	109	121	85	-42	-13
太平洋側	140	31	123	102	66	8	38	-35	115
西日本 日本海側	196	124	144	59	27	27	137	97	117
太平洋側	167	79	157	92	29	12	75	50	145

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

気象庁ホームページ「2024年10月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2024年11月調査結果（10月実績）
（2024年11月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

11月調査（10月実績）結果概況

現状、見通し判断DIは前月と同水準で推移

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.7の46.4、見通し判断が前月から-0.1の42.8と、共に前月とほぼ同水準で推移した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に前月から下落し、マイナス域まで低下した。客単価DIが小幅に低下するなか、来客数DIが大きく低下した影響を受けた。引き続き生鮮品仕入原価DI、食品仕入原価DIは二桁プラス圏で推移、販売価格DIは高水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、惣菜DIを除くカテゴリーで前月より低下し、相場高傾向の青果、新米の流通と価格上昇の一般食品DI、好調の続く惣菜DIがプラス域を維持した。高い気温の影響を受け、この時期に主力となる、おでん・鍋など秋冬商材の不振が影響している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、消費者購買意欲DIが小幅に悪化した以外は、ほぼ前月と同水準で推移した。現状判断、見通し判断DIの変化に大きな違いはなく、方向感のない推移が続いている。（長期傾向はP11参照）

ここ数か月は、記録的な猛暑や残暑による夏物商材の好調、7月以降の米不足報道による特需、8月の防災意識の高まりによる食品備蓄行動などが販売を底上げしていたが、今月は高い気温による秋冬商材の伸び悩みが大きくなった月となった。一部に値上げによるプラスが継続しているものの、全体的には一品単価の上昇圧力は徐々に低下傾向にあり、客単価の上昇は踊り場に差し掛かったとみられる。今後、節約志向が一層高まるとも予想され、人件費や光熱費も上昇し続ける中、収益性を高める施策が急務となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：46.4 (-0.7) 前月：47.1	消費者購買意欲DI 当月：45.3 (-2.6) 前月：47.9	周辺地域 競合状況DI 当月：44.3 (-1.7) 前月：46.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.6 (+0.1) 前月：47.5
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：42.8 (-0.1) 前月：42.9	消費者購買意欲DI 当月：43.0 (-2.0) 前月：45.0	周辺地域 競合状況DI 当月：41.5 (-1.4) 前月：42.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.0 (+0.4) 前月：45.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-3.1 (-6.4) 前月：3.3	客単価DI 当月：5.9 (-2.7) 前月：8.6	来客数DI 当月：-9.9 (-7.0) 前月：-2.9	
収益DI 当月：-9.0 (-8.6) 前月：-0.4	販売価格DI 当月：16.8 (-1.7) 前月：18.5	生鮮品仕入原価DI 当月：17.0 (-2.6) 前月：19.6	食品仕入原価DI 当月：19.1 (0.0) 前月：19.1

カテゴリー動向

青果DI 当月：3.2 (-6.1) 前月：9.3	水産DI 当月：-6.7 (-7.9) 前月：1.2	畜産DI 当月：-8.6 (-8.2) 前月：-0.4	
惣菜DI 当月：9.5 (+1.9) 前月：7.6	日配DI 当月：-12.4 (-4.0) 前月：-8.4	一般食品DI 当月：1.6 (-6.4) 前月：8.0	非食品DI 当月：-9.1 (-3.7) 前月：-5.4

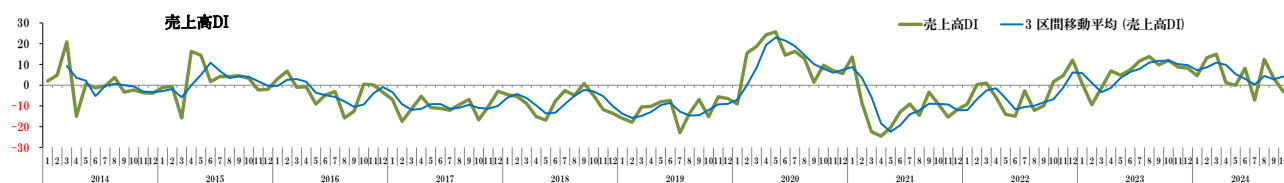
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から下落し、マイナス圏に

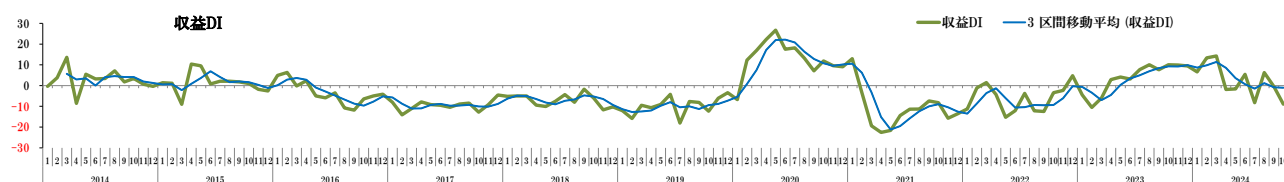
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	3.4	22.4	35.6	34.5	4.0	3.3
売上高 (当月)	6.3	28.0	40.6	22.4	2.8	-3.1



2. 収益DI

前月から大きく下落、マイナス幅を拡大

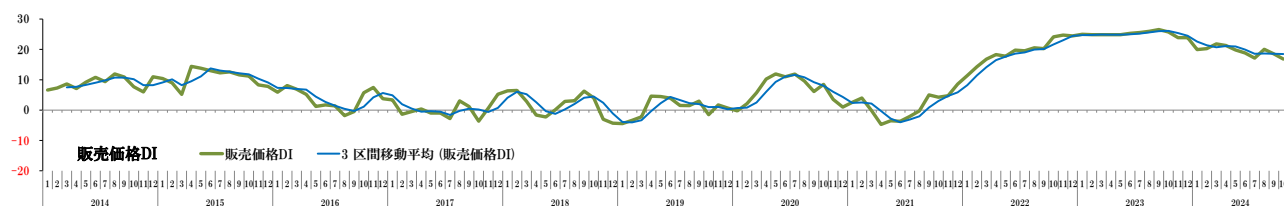
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	8.2	23.5	36.5	25.3	6.5	-0.4
収益 (当月)	8.6	34.5	43.9	10.1	2.9	-9.0



3. 販売価格DI

前月から小幅に下落も、二桁プラス水準を維持

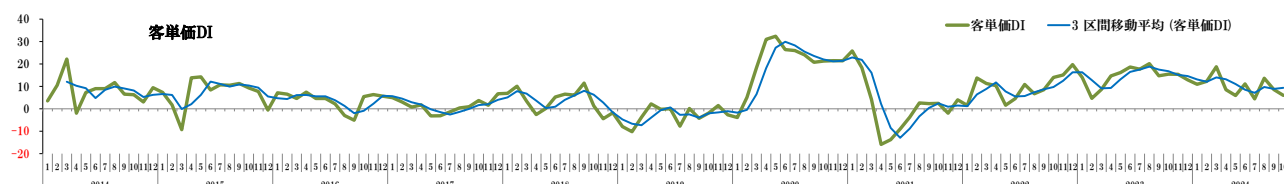
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.9	25.3	66.7	5.2	18.5
販売価格 (当月)	0.0	3.5	29.1	63.8	3.5	16.8



4. 客単価DI

前月から下落も、プラス圏を維持

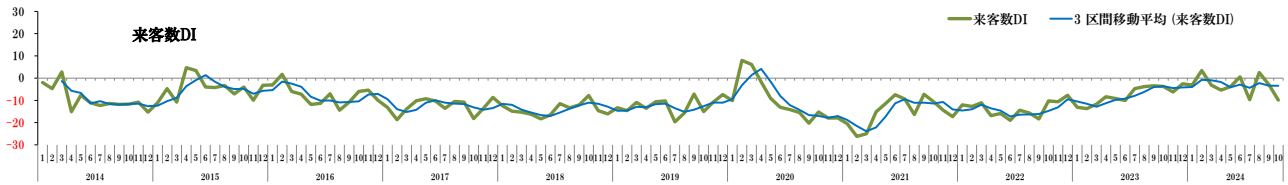
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	14.5	41.3	39.5	4.7	8.6
客単価 (当月)	2.1	16.8	39.9	37.8	3.5	5.9



5. 来客数 DI

前月から下落、マイナス幅を拡大

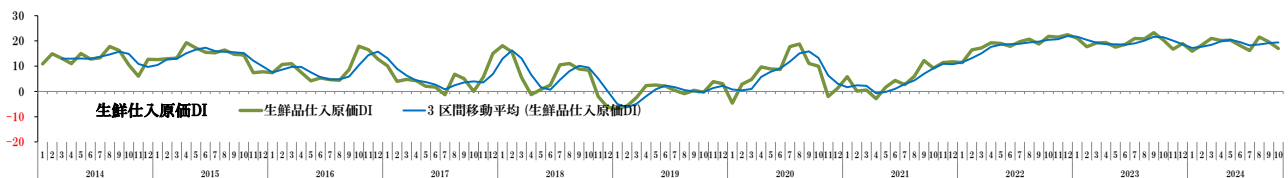
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.6	28.2	43.1	22.4	1.7	-2.9
来客数 (当月)	8.5	38.0	38.7	14.1	0.7	-9.9



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から下落も、二桁プラス水準を維持

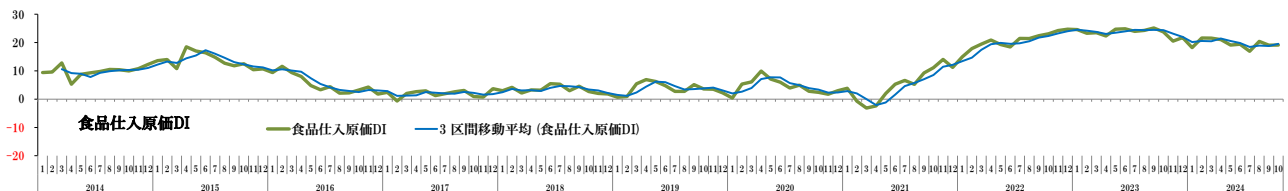
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.2	6.0	16.7	65.5	10.7	19.6
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	5.1	27.0	62.8	5.1	17.0



7. 食品仕入原価 DI

前月と同水準で、42 か月連続プラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.4	6.1	13.9	67.9	9.7	19.1
食品仕入原価 (当月)	0.0	5.1	21.3	65.4	8.1	19.1

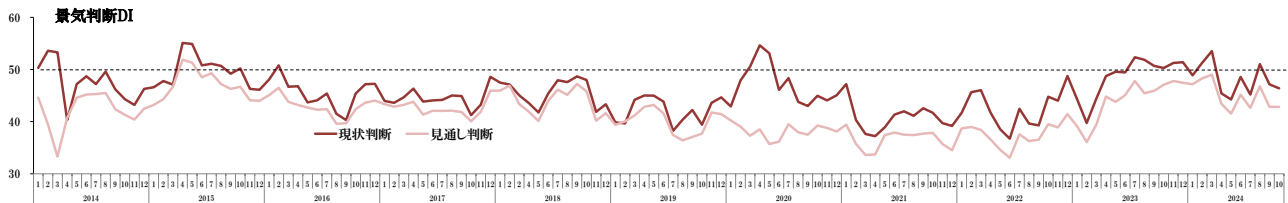


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は変わらず

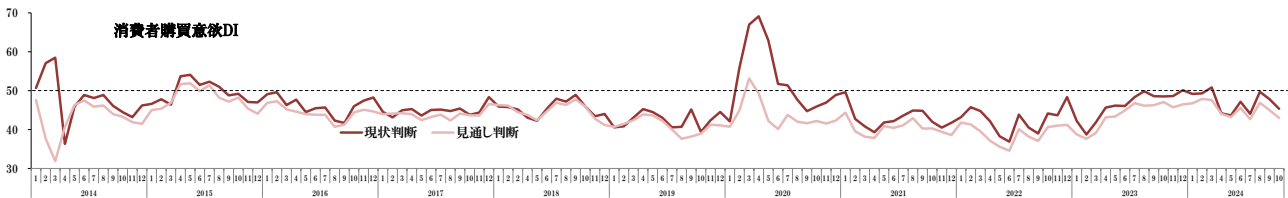
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.6	21.7	67.4	9.1	1.1	47.1
【現状】景気判断 (当月)	2.1	20.7	68.3	7.6	1.4	46.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.7	33.1	57.7	6.9	0.6	42.9
【見通し】景気判断 (当月)	1.4	33.6	58.0	6.3	0.7	42.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

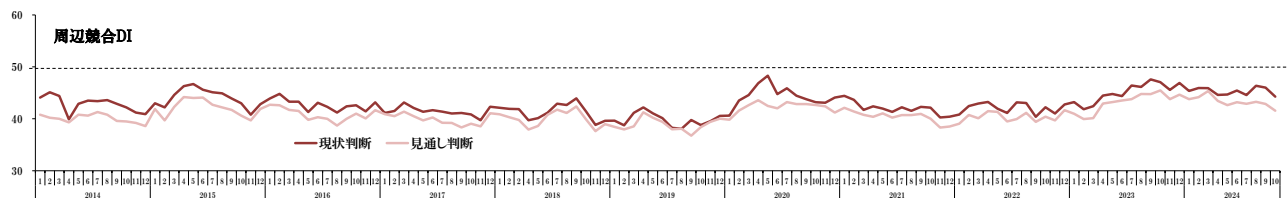
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.6	20.0	67.4	11.4	0.6	47.9
【現状】購買意欲 (当月)	2.1	25.5	62.1	9.7	0.7	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.6	28.6	61.7	8.6	0.6	45.0
【見通し】購買意欲 (当月)	1.4	32.9	58.7	6.3	0.7	43.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

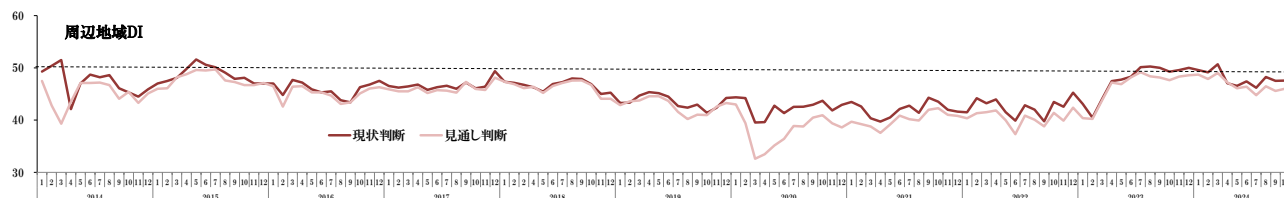
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.7	15.4	80.0	2.9	0.0	46.0
【現状】競合状況 (当月)	3.5	18.8	75.0	2.8	0.0	44.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.6	20.6	73.7	1.1	0.0	42.9
【見通し】競合状況 (当月)	7.7	21.1	68.3	2.8	0.0	41.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月と同水準

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	12.9	84.2	2.9	0.0	47.5
【現状】地域景気(当月)	0.7	14.6	78.5	6.3	0.0	47.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	21.2	75.3	3.5	0.0	45.6
【見通し】地域景気(当月)	0.7	18.8	76.4	4.2	0.0	46.0

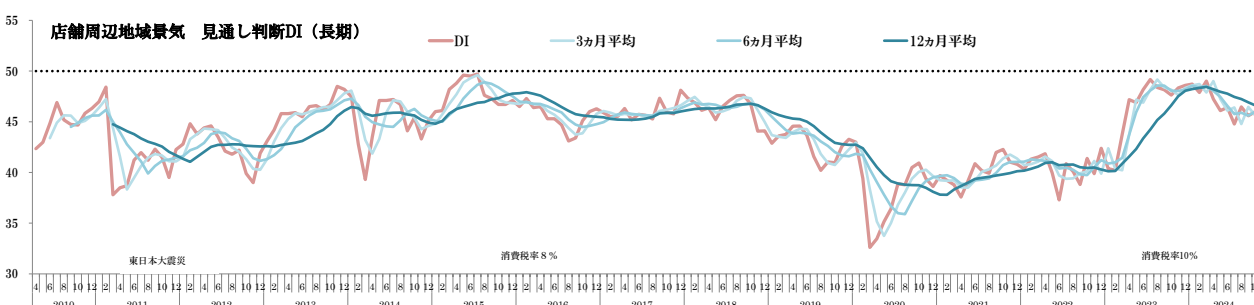
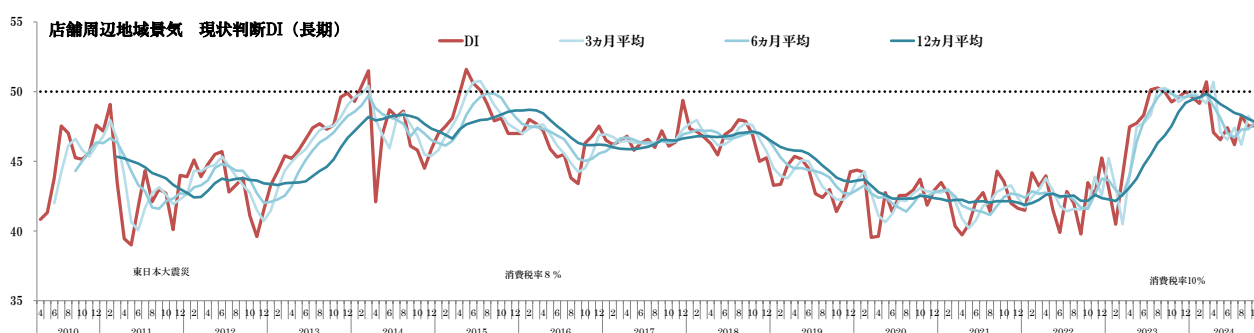


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月は現状判断DIが51.5を記録。14年4月の消費税率8%引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、2015年5月には現状判断DIは51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかし、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷。以後方向感の乏しい推移が続いたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下。20年2月に大幅に悪化した、その後持ち直しの動きが続いた。

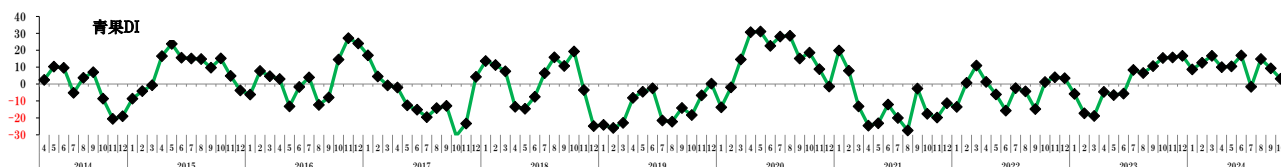
21年は、感染状況により上下に振られる動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化、感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持したものの24年4月に一転して大きく悪化し、その後は方向感のない推移が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：3.2（やや好調）

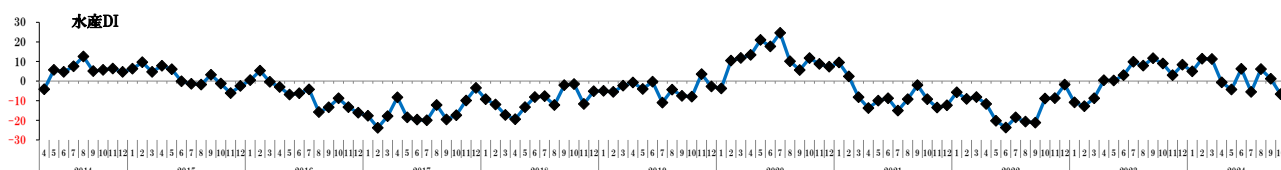
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.8	13.9	27.7	46.4	7.2	9.3
青果（当月）	5.6	25.4	27.5	33.8	7.7	3.2



猛暑や天候不順の影響で青果相場は高値で推移し、一品単価の上昇でやや好調に推移した。気温が高いことから、ネギや白菜など鍋関連商材の動きが鈍い一方、トマトやきゅうりなどのサラダ関連野菜、ナスやピーマンなどの炒め物関連野菜、カット野菜の動きがよかった。価格の安定しているキノコの動きは比較的良い一方で、大根やキャベツは高値で動きが悪いとのコメントもみられた。果実は、みかんや柿の出荷が遅れ高値傾向で不調、一方でリンゴや梨、ブドウは動きがよかった。輸入果実ではバナナが好調とのコメントが多い。

2. 水産DI：-6.7（やや不調）

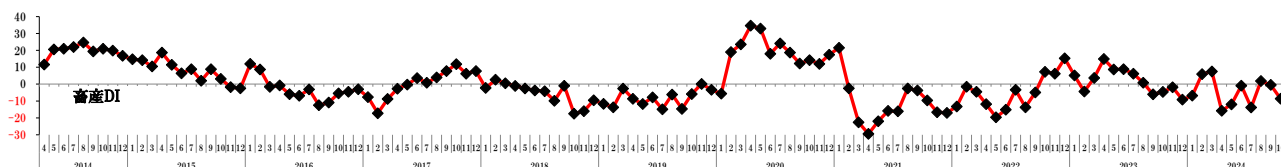
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	4.8	27.5	31.7	29.9	6.0	1.2
水産（当月）	9.9	36.6	26.8	23.9	2.8	-6.7



旬のサンマが前年比では水揚量が増え、大きく売上を伸ばした一方で、秋鮭は不漁で相場高となり苦戦した。気温が高く推移した影響で鍋関連商材の動きが悪く、なかでも牡蠣は高値傾向が続き不調となった。刺身類など即食性の高い品目は比較的動きが良い。しらすなどのちりめん類に回復傾向が続くものの、カニやエビなどの冷凍水産品、貝類や魚卵は価格高騰で苦戦が続いている。

3. 畜産DI：-8.6（やや不調）

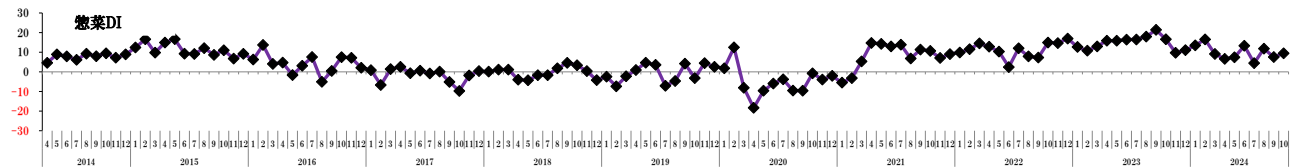
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	6.6	26.9	34.7	25.1	6.6	-0.4
畜産（当月）	11.3	35.2	34.5	14.8	4.2	-8.6



全般的に相場高が継続するなか、気温が高く推移したため鍋関連の動きが鈍く、やや不調となった。牛肉は輸入牛が不振だが、国産牛は前年並みで推移した。豚肉は相場がやや落ち着き、ひき肉や小間切れなどの低価格商品の動きがよかった。鶏肉は節約志向の中で比較的堅調だが、鳥インフルエンザ発生の影響を心配するコメントもみられる。加工肉は高値傾向で不振が続いていたが、一部で回復傾向もみられている。

4. 惣菜DI：9.5（やや好調）

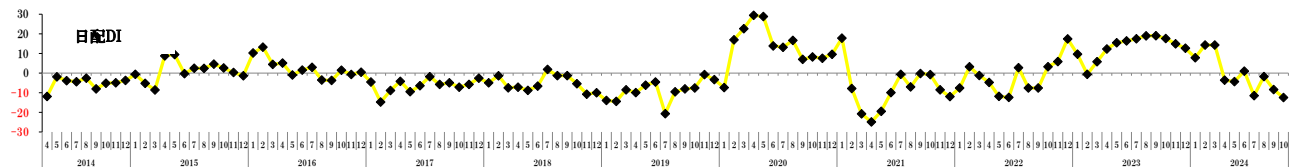
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.2	14.5	43.6	33.9	6.7	7.6
惣菜（当月）	2.9	12.1	35.0	44.3	5.7	9.5



精米の価格高騰の影響もあつてか、惣菜部門では米飯類、麺類等の好調が続いている。気温が高めに推移し、自宅での調理を敬遠する傾向が継続しており、揚げ物類、焼き物関連の惣菜も好調に推移した。青果相場の高騰でサラダ関連惣菜の動きもよい。即食向きの商品、出来立てや季節感の演出など、商品のテコ入れにより販売が好調とのコメントも多くみられた。

5. 日配DI：-12.4（不調）

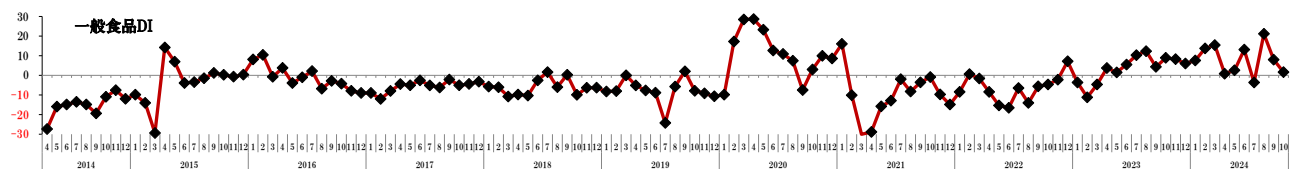
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.3	36.0	40.9	14.6	1.2	-8.4
日配（当月）	12.1	39.0	36.9	10.6	1.4	-12.4



単価上昇により好調が続いていたが、全般的に伸び悩み傾向がみられる。気温が高く推移し、アイス・氷菓、飲料などの販売が好調、冷凍食品も引き続き好調に推移しており、青果相場高で特に冷凍野菜が好調となった。おでんや鍋商材などホット商材関連の豆腐や練り物の動きが鈍く、和日配が不調。値上げが一巡した牛乳・乳製品も苦戦した店舗が多い。前年価格が高騰した卵には反動減も。気候対応に苦慮するコメントが多い。

6. 一般食品：1.6（やや好調）

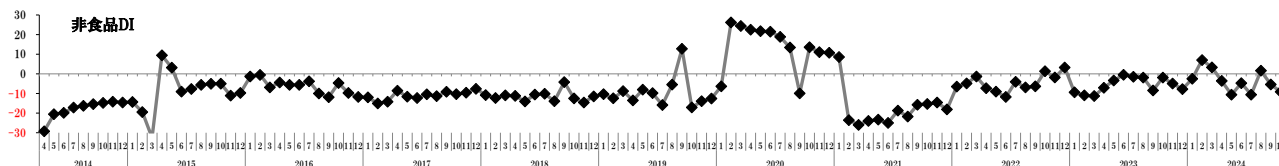
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.8	18.7	36.7	31.3	11.4	8.0
一般食品（当月）	3.5	25.4	38.0	27.5	5.6	1.6



新米の流通が本格化し、価格の上昇を追い風に販売高は大きく伸長したが、買上点数は低下したとのコメントがみられた。その影響もあつてか、レンジ米飯が引き続き好調とのコメントも。気温が高く推移し、飲料、ビールなどの酒類、乾麺やめんつゆ、ドレッシングの動きが比較的よかった一方で、鍋つゆやスープなどのホットメニュー関連、値上げの続く菓子類は不調。ハロウィン向けの菓子も伸び悩んだという声が多い。

7. 非食品 DI：-9.1（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.1	29.1	37.3	19.0	4.4	-5.4
非食品（当月）	11.9	34.1	35.6	15.6	3.0	-9.1



乾電池など防災備蓄商品が引き続き好調に推移している。気温が高く、防虫剤・虫ケア用品の好調が継続した一方で、この時期に売り込みたい入浴剤やカイロ、衣料など防寒・冬物商材が不振となった。値上げの影響で、一部の住居洗剤が好調となったとのコメントもみられた。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2024年11月調査（10月実績）キーワードTOP3

1. 気温が高く、秋冬商材不振
2. 新米の流通、価格高騰、点数減
3. 節約志向

（参考）2023年11月調査（10月実績）キーワードTOP3

1. 高温による夏物商材好調持続、秋冬商材不振
2. 価格上昇による単価上昇
3. 行事・イベントの再開

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10月実績速報版 145社
 9月実績確報版 175社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp